

第4・5・6学年「スッと立てるかな・スッと立てるかな」 — 倒立グループ・後転グループを中心としたマット運動 —

宇和島市立玉津小学校 高田 正志

マット運動が苦手な子どもにとって、倒立や後転は難しい技です。そこで、比較的身に付けやすい頭倒立を学習し、そこで培われた逆さ感覚や腕支持感覚を生かし、仲間と協力しながら後転の学習を進めます。クラス全体のめあてを「スッと立てるかな（頭倒立）・スッと立てるかな（後転）」とし、出来ばえを見合いながら楽しく学習していきます。

○ 単元モデル

	1	2	3	4	5	6	7	8	頭倒立では、「体の重みを感じて、スッと立てるかな」という課題で体の重さを感じながら支持基底面に重心を乗せていく倒立を目指していきます。後転も順次接触・回転加速・頭越し技術を基に、「スッと立てるかな」という共通課題を位置付け、習得を目指していきます。
はじめ	オリエンテーション	基礎感覚を高める補助運動 (ねこちゃん体操)						発表会 (アフタービデオ撮影)	
なか	ビデオ撮影	基本技習得に向けた学習 (前半は倒立グループ・後半は後転グループ)							
おわり		課題や条件を変えた取組							

○ 運動のポイント

動物などの真似をしながらいろいろな動きを経験し、基礎感覚づくりを十分に行い、仲間と協力しながら基本技習得に向けて運動に取り組みます。

基礎感覚を高める補助運動（ねこちゃん体操）

「ねこちゃんがおこった」
「ねこちゃんのあくび」
「フーッ」
「かめさんになって」
「ハッ」
「アンテナ、ピン」
「にゃ〜おん」
「アンテナ、ポキッ」
「ピン」→「グーラン、グーラン」

背中を丸めたり反らしたりして大きな動きに挑戦してみよう。

体が起き上がっていたり回数が増えていたりした子どもは評価し、動きの質の向上も求めていきます。

基本技習得に向けた学習（「する・みる・支える」のグループ学習）

スッと立てるかな

頭倒立の学習では、しっかりと補助を行い、安心・安全の中で運動に取り組みながら、少しずつ補助を少なくし、一人で行うことができるようにしていきます。（最大から最小の補助へ）

スッと立てるかな

後転の学習では、柔道着の帯を使い、腰を引き上げ頭越しのタイミングをつかみます。

参考文献『新しいマット運動の授業づくり』大修館書店

小体連だより

平成30年10月 第116号
愛媛県小学校体育連盟
発行者 松本 賢司
編集 調査広報部
〒790-0032 松山市土橋町1番地
雄郡小学校内(事務局)
TEL (089) 931-3197
FAX (089) 933-9931
http://syoutairen.esnet.ed.jp/

第42回愛媛県小学校教員体育研修会を終えて

研修会運営部長 松山市立湯山小学校 一色 昭宏

8月3日(金)、テクノプラザ愛媛において、第42回愛媛県小学校教員体育研修会が開催され、約230名の先生方に参加していただきました。午前の分科会、午後の講演と充実した研修会となりました。

- 研究主題
「愛顔いっぱい 体育学習」
 - 分科会
今年度は、研究サイクルの最終年度であり、県下16郡市が3年間の研究成果を発表しました。発表に続いて行われた協議では、次のような意見が出されました。
 - 教材について
 - 何をねらいとする運動なのかということ教師が意識して教材を吟味する視点が大切である。
 - 身に付けさせたい力を系統的に分析して、条件を整備しながら教材づくりを行うことが大切である。
 - 既存の教材を与えるだけではなく、思考を活性化させることができるものに修正・改良し、意味や価値を付け加えていく必要がある。
 - 技能のポイントを焦点化することは、必要な教師の手立てが明確になり、子どもも何ができるかよのかが分かり、主体的に学習を展開していくことにつながる。
 - 学習形態について
 - 子ども自身の課題を明確にすることが、仲間の関わり（話し合いや学び合い）を促進したり、課題に応じた運動の仕方や場を判断・選択する力を養ったりすることにつながる。
 - 運動の仕方への理解を深める手立ての一つとして、オノマトペを活用することで、「する・みる・支える」におけるどの立場でも技能に関する共通の感覚を共有することができる。
 - 異学年合同の場合、他の学年と関わることでリーダー性、フォロワー性を身に付けることができる。一方、学年に合わせた目標を設定したり、声掛けの仕方を変えたりする必要がある。
 - 評価について
 - ルーブリックを活用した新たな評価の仕方を知ることができた。
 - 自分の様子を客観的に振り返ることができる評価が今後の指導や学習の質の向上につながる。
 - ICTを活用することは、自他の動きを客観的に見ることができ、今後も活用の広がりが期待される。一方で、情報過多にならないように、効果的な活用の仕方を考える必要がある。
 - 運動の日常化について
 - チャレンジカード等を用いて、授業で学習したことを外遊びや家庭での取組の中に取り入れる工夫をしていくことで、運動の日常化につなげることができる。
 - 子どもたちの運動意欲を高めたり日常化につなげたりするためには、運動に対する必要感や挑戦心をいかに育むことができるかが大切である。運動好きの子どもを育てていくためには、授業の中でできる楽しさや分かる喜びをたくさん伝えていきたい。
- 分科会を通して、愛顔いっぱい子どもたちを育むための様々な視点や研究成果を共有することができました。今後、研修会で学んだことを各校での実践に生かし、研究の成果をさらに広げていきたいと思っております。なお、研究の詳細につきましては、今年度末に発刊する「平成30年度 愛媛県小学校体育連盟研究紀要」にてお示しします。
※ なお、西条市の研究は、平成30年10月26日(金)に倉敷市で開催されます第56回中・四国小学校体育研究大会(岡山大会)にて発表いたします。ぜひとも御参加ください。

講演 「主体的、対話的な深い学びの指導と評価の充実に向けて」

桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊先生 (元文部科学省教科調査官)

平成32年度の全面実施に向けた新学習指導要領における指導のポイントや評価計画を含めたカリキュラム・マネジメントについて講演をしていただきました。指導における具体的な問題場面を提起して、フロアで話し合い、それぞれの意見を出し合う、まさに「アクティブ・ラーニング」が行われました。また、カリキュラム・マネジメントについては、資質・能力の3観点や評価について具体例を交えながら指導をしていただき、今後の学習指導や年間指導計画の作成に生かすことができるような、御示唆をいただきました。なお、講演の詳細内容は、愛媛県小学校体育連盟HPに掲載していますのでご覧ください。

第54回水泳通信記録会を終えて

平成30年度水泳通信記録会には、西日本豪雨や酷暑の影響で参加を見送る郡市がありましたが、延べ9,377名の選手が参加しました。そのうち、標準記録通過者数は2,928名で通過率は31.2%となり、標準記録設定の目安としている30%を上回る結果となりました。また、今年度は、個人2種目で新記録、個人1種目でタイ記録が樹立されました。これらの結果は、各校で競技力の向上を目指し、熱心に御指導いただいた成果だと思います。今後も、水泳通信記録会が学校体育の一環として意義あるものになりまよう、御協力をよろしくお願ひします。

種目	男子			女子			合計		
	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)
25m自由形	1,664	507	30.5	1,465	358	24.4	3,129	865	27.6
50m自由形	909	342	37.6	820	261	31.8	1,729	603	34.9
100m自由形	258	93	36.0	215	65	30.2	473	158	33.4
50m平泳ぎ	548	175	31.9	501	135	26.9	1,049	310	29.6
100m平泳ぎ	223	79	35.4	196	54	27.6	419	133	31.7
50m背泳ぎ	252	98	38.9	252	85	33.7	504	183	36.3
25mバタフライ	221	70	31.7	210	57	27.1	431	127	29.5
50mバタフライ	99	36	36.4	83	25	30.1	182	61	33.5
75m個人メドレー	178	69	38.8	161	48	29.8	339	117	34.5
200mリレー	342	118	34.5	335	93	27.8	677	211	31.2
150mドレーラー	228	91	39.9	217	69	31.8	445	160	36.0
合計	4,922	1,678	34.1	4,455	1,260	28.1	9,377	2,928	31.2

種目	男子			女子			合計		
	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)	参加数 (人)	通過数 (人)	通過率 (%)
新記録									
男子50m自由形	28.6	宮西	金田 浩聖	新居浜					
男子100m自由形	1:02.2	宮西	金田 浩聖	新居浜					
タイ記録									
女子25m自由形	14.5	田之筋	大竹 殊生	西予					

第6学年「スローイング ベースボール」 - ベースボール型ゲーム -

新居浜市立角野小学校 眞鍋 裕介

スローイングベースボールでは、野球のルールの「打つ」動作の代わりに「投げ」て攻撃することで、技能的なハードルを下げ、みんなが楽しむことができる授業になるように工夫しています。単元前半では、ベースボール型の基本的な技能の習得を目指し、ゲームの難易度を段階的に上げていくことで攻守の動きを身につけます。後半では、ボールや守備の位置を見て進塁を判断したり、ボールを投げる位置を考えたりしながら、チームで協力してゲームを行います。

○ 単元計画

学習の流れ	つかむ				身に付ける				生かす		
	1 めあて準備	2 めあて準備	3 めあて準備	4 めあて準備	5 めあて準備	6 めあて準備	7 めあて準備	8 めあて準備	9 めあて準備	10 めあて準備	11 めあて準備
オリエンテーション	ドリルゲーム				・ キャッチラリーゲーム ・ 的当てゲーム ・ 中継りレール ・ ベースランニングゲーム				ドリルゲーム 作戦		
キャッチボール	フォースプレーゲーム①	タッチプレーゲーム①		ホームインゲーム①				リーグ戦①			
フォースプレーゲーム	フォースプレーゲーム②	タッチプレーゲーム②		ホームインゲーム②				リーグ戦②			
	振り返り				振り返り				振り返り		

○ 運動のポイント

試合に必要な「捕る」「投げる」の基本技能を定着させることで、自信をもってプレーすることができます。作戦マニュアルを使用することで、チームで作戦を共有し、誰もが状況判断をできるようにします。

キャッチボール

パクツとキャッチ



手を上下に開いて、上の手で「パクツ!!」とすると落とさずに捕れるよ。



手の甲を頭に「とんとん!!」すると肘が上がるよ。



腰を「クルツ!!」とすると球に勢いが付くよ。



踵を上げるとスムーズに体重移動ができるよ。

とんとんスロー

ドリルゲーム

中継りレール



チームでボールを素早く中継しましょう。

気付き・発見タイム

打者の入れ替わり時



ランナーは1塁だから作戦マニュアルを見て、状況に合った作戦を選びましょう。

ランナー1塁

	ボール有	ボール無
内野	1塁へ (フォース) 3塁へ (タッチ)	・ ベースへ ・ 中けいへ
外野	3塁へ (タッチ) ホームへ (タッチ) 中けいへ (内野へ)	・ 中けいへ ・ 声掛け

状況判断が早くできるようにプレーを考えておきましょう。

参考資料『みんなが輝くやさしいベースボール型授業』一般社団法人日本野球機構

第4学年「目指せ、ボール投げ名人」 - 体づくり運動・ベースボール型ゲーム・陸上運動 -

東温市立拝志小学校 森下 聡太

単元を通して、複数の領域を横断しながら、投げる動作に親しみフォームを習得し、さらに遠投能力を向上させることをねらいとしています。スモールステップで、基本的な投げる動きを身に付けることができるため、投げるのが苦手な児童も前向きに取り組みながら学習できます。

○ 単元計画

時	第1・2時(体づくり運動領域)	第3・4時(ベースボール型ゲーム領域)	第5～7時(陸上運動領域)
はじめ	○ オリエンテーション ・ 学習の進め方	○ タオル体操	
なか	○ ドリル練習 ○ 用具を操作する運動 (フラフープ、ボール、フリスビーなど)	○ ドリル練習 (みかん投げ・レジボールスロー・ ピュンピュンスロー) ○ 投げ方の学習 ○ スローイングベースボール	○ ドリル練習(ボールの速さ) ○ ソフトボール投げ ○ 記録会
おわり	○ 整理運動 ○ 振り返り・感想発表		

○ 運動のポイント(ドリル練習)

みかん投げ
(リリースの位置を意識する動き)



肘を上げて、高い位置でリリースしないと上手に飛ばないよ。

レジボールスロー
(投げ出す角度を意識する動き)



放物線を描けるように肘を高くして投げるのがポイントだよ。

ピュンピュンスロー
(ボールの速さを意識する動き)



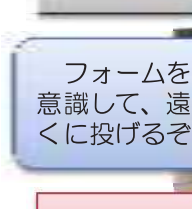
タオルを思い切り振って生じる風で的を倒すことができるかな。

スローイングベースボール

【ルール】

- ① 攻める側が、規定線内からできるだけ遠くにボールを投げます。
- ② 守る側は、走ってそのボールを捕りに行きます。
- ③ 攻める側は、守る側がボールを捕りに行っている間に、一定の距離に置かれた玉を決められた場所に一つずつ運びます。
- ④ 守る側は、ボールを一人が捕り、他のメンバーはその子を囲むように、手をつないでその場に座ります。
- ⑤ 守る側がボールを捕って座るまでに運んだ玉の数だけ、攻める側の得点として加点されます。

投げる人



フォームを意識して、遠くに投げるぞ。

できるだけ遠くにボールを投げないと、得点につながりません。

玉を運ぶ人



守備側の人

みんな、早く集まろう。



守備側は、全員で投げられた玉を拾いに行き、最後は手をつなぎ合っ